

月 灘 沖 漁 場 調 査

漁業科 浜 田 英 之

昭和61年度に再開された高知県沿岸漁場調査の一環として平成3年度は大月町月灘沿岸の海岸地形測量、漁場深浅測量、底質調査等を実施し、漁場図を作成した。

1. 調査方法

(1) 調査海域

土佐清水市叶崎から大月町西泊に至る海域で水線110m線付近まで(別図参照)。

(2) 海岸地形測量

海岸地形測量には光波測距儀一体型セオドライト(トプコンEDMセオドライト GUPPY GTS-2B10)を使用した。また、参考資料として地形図(国土地理院作成, 25,000分の1)を使用した。

(3) 測深調査

調査船として土佐海洋丸(48トン, 750馬力)を使用した。測深機としては土佐海洋丸に装備されている古野電気製, 魚群探知機(FE-W822ET, 出力2kw, 周波数200kc)を使用した。

また, 海上における測位は借り上げた電波測位機(Electr-O-Posik, MODEL YM-100)を使用し, 30秒毎に実施した。主局と2従局間の距離により描かれる2個の同心円の交角が不良な一部の海域ではセオドライトによる測角も実施し, 1角1距離による位置決定も行った。調査船の測線誘導はロランC受信機で行い, 航走速度は約10ノットであった。

測得水深は海上保安庁水路部刊行の潮汐表に記載されている測深日時の土佐清水港の潮高およびバーチェックの結果を用いて補正し, 基本水準面(略最低低潮面)下の深さをメートル単位で小数点以下第一位まで示した。

(4) 底質調査

調査海域内の15点でハンドレッドを使用して底質を調査し, またその結果と魚探記録を併用し, 岩界線も推定した。

2. 漁場図作成および考察

調査, 測量の結果から海岸地形図, 航跡図等を作成し, 製図作業を経て最終的に後に掲載した漁場図を6,000分の1の縮尺で作成した。

これを見ると、西泊沖合は岩礁域も少なく、比較的平坦な海底が続いている。朴崎沖では岩礁域の張り出しが水深86m付近に達している。叶崎沖ではさらに大規模な岩礁域の張り出しが見られ、その先端は水深100mに達している。

